

1. 第26回合同部会①

協議会の承認を得た、活動計画について、今後の進め方を事務局より示し、構成員の意見をもらう。

⇒前回第25回合同部会（11月25日付け資料送付）で示しました下記の資料の内、(3) アクセス道路ネットワーク化（4-4）遊水地案内道路案内（4-5）のレンタサイクルの連携等について、12月2日（水）に打合せを実施しましたので、その内容を報告いたします。

(1) 全体的な計画の検討（1-1）

①「ラムサール10周年記念事業に向けた取組みについて」

- ・5周年記念シンポジウムにおける「渡良瀬遊水地宣言」を踏まえつつ、協議会として目指す遊水地の将来像を検討する。

メニューの照会・調整を行い令和2年末までに概要をまとめる。

◎アンケート設問1 ラムサール10周年を記念した事業等について

保全・再生	外来種の除去活動、自然観察会
ワイズユース	PR動画制作、マラソン等のイベント、田んぼアート
交流・学習	子供たちを巻き込んだ事業、パネル（写真）展の実施、シンポジウムの開催、パネルディスカッション、記念カード作成
その他	書籍作成

⇒回答をもとに幹事会でメニューの方向性を絞って検討を進めていきます。

②「渡良瀬遊水地のビジョン等について」

- ・その将来像を念頭に入れて、合同部会における令和4年度（ラムサール10周年）について、分野別の年次計画を令和3年度末までにまとめる。

◎アンケート設問2 渡良瀬遊水地の将来像について

保全・再生	湿地環境の保全、観光開発と自然保護の両立、治水対策の中での環境保全や観光振興（ワイズユース要素含む）
ワイズユース	観光スポットとしての価値向上、テーマパーク、グランピング
交流・学習	エコミュージアム、自然価値の継承
その他	4市2町の事務組合、財団設立

⇒利根川上流河川事務所にて作成した渡良瀬遊水地グランドデザインと基本として更に検討を進めていきます。

◎アンケート設問3 10周年以降の取り組むべき事項について

保全・再生	貴重種保全、湿地保全ボランティア、環境保全計画
ワイズユース	エコツーリズム、遊水地へのアクセス方法、ワイズユース計画
交流・学習	ボランティア組織化
その他	各市町で実施している施策の統一化

⇒渡良瀬遊水地の将来像と併せて検討を進めていきます。

(2) 自然環境を生かした利用 (1-2) ヨシの利用 (4-3)

○ヨシ焼きの継続実施について

- ・昨年度、実施されたヨシ焼き火入れ体験付きツアーの実施状況等を示す。
- ・継続して実施ができるよう、将来を見据えた人材確保などの対応策を検討する。
- ・例えば、ボランティア募集について、火入れ作業以外で参加してもらう等。
- ・ヨシ焼き従事者の方の意見を聴く。

◎アンケート設問4 ヨシ焼きの継続実施について

隔年での実施、区域ごとの実施、10周年記念に合わせた基調講演・パネルディスカッション、継続実施、後継者の育成、人材確保、観光化

⇒事務局において検討し、次回以降に詳細を示します。

○ヨシの新たな利用について

- ・まずは、具体的なアイデアを出してもらい、可能性のあるものを見出す。
- ・例えば、ヨシズの製造過程で出る端材を使ったヨシのストロー作成等。

◎アンケート設問5 ヨシの新たな利用について

ヨシストロー、腐葉土づくりと販売

⇒事務局において検討し、次回以降に詳細を示します。

(3) アクセス道路ネットワーク化 (4-4) 遊水地案内道路案内 (4-5)

○レンタサイクルの連携等について

⇒12月2日(水)に打合せを実施。概要は別紙

小山市、古河市が現在のレンタサイクルの利用状況や財政面から今年度末に事業の終了、凍結予定となっており、他の市町でも現在の乗り捨て自転車回収業務だけでも手一杯になっていることから乗り捨ての拡大は難しいとの意見が出た。現在実施している事業を横結びすることは難しいので、連携を拡大する幅や民間を活用した手法等を検討したい。

○遊水地内の案内サインの改善について

- 平成28～29年度の合同部会での検討結果にあった、遊水地内の各分岐点等への位置表示看板の設置について、再度検討を行う。
 - 例えば、国交省が設置している管理用通路等を示す看板支柱を活用して、現在地の位置を表示するプレート又はシートを作成し、取り付ける等。
- ⇒利根川上流河川事務所と協議の上、幹事会で調整します。

レンタサイクル連携に向けた打合せ（概要）

日時：令和元年12月2日（水） 14：00～15：15

場所：栃木市藤岡遊水池会館

出席者：古河市、小山市、野木町、板倉町、加須市、一般財団法人渡良瀬遊水地アク
リメーション振興財団、栃木市 担当者計15名

内容：

- 各市町等で現在実施されているレンタサイクルの運営、協定や取り決めについて確認及び今後の連携方法案について説明。
- 小山市のシェアサイクルは、都市計画部門で実施しているが、使用目的やコストの面から遅くとも今年度末には終了する予定。事業終了後の自転車の配置は未定だが、担当課としてはコウノトリ交流館に置きたいと考えている。
- 古河市でも、使用目的やコストの面から今年度末には事業凍結する予定。野木町との乗り捨て協定は場所を変更して継続する。
- 野木町、板倉町からは乗り捨て回収業務の増加が見込まれるのであれば、委託等を検討する必要があるとの意見あり。
- アクリメーションからは、遊水池全体の連携は広すぎるのではないかと、ニーズがあるのかわからない。また、マンパワー的にアクリが乗り捨て回収の業務委託を受けることは難しいとの意見あり。
- 他の意見としては、小山市、古河市が事業を撤退するなかで、連携を広げていくのも逆行している印象がある、また現在、市町等にて実施している事業を繋げるより、ステーション設置等統一した1つのものを作るほうが実現性が高いかもしれない、といったものが挙がった。

⇒当初計画していた現行事業での連携は難しいので、連携を拡大していく幅や民間等を活用した手法等を検討したい。